

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-109728

(43) 公開日 平成8年(1996)4月30日

(51) Int. CL ⁶	識別記号	片内登録番号	P 1	技術表示箇所
E 0 4 F 13/08		E 9127-2E		
E 0 4 C 2/30		X		

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 5 頁)

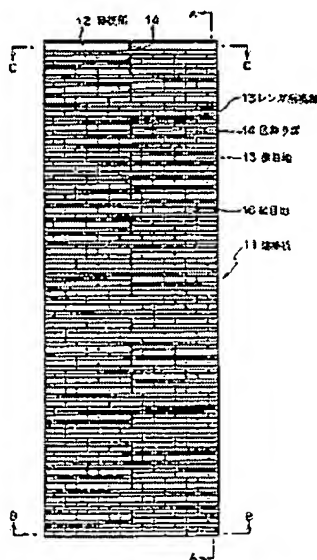
(21) 出願番号	特願平6-240655 [JP, 06-109728, A]	(71) 出願人	000110600 ニチハ株式会社 愛知県名古屋港区汐止町12番地
(22) 出願日	平成6年(1994)10月13日	(72) 発明者	竹村 哲治 名古屋市港区汐止町12番地 ニチハ株式会 社内
		(72) 発明者	小川 泰弘 名古屋市港区汐止町12番地 ニチハ株式会 社内
		(74) 代理人	弁理士 加古 宗男

(54) 【発明の名称】 建築板

(57) 【要約】

【目的】 建築板の継ぎ目でレンガ柄模様の目地が多少ずれていたとしても、それがほとんど目立たず、美観を損なわずに済むようにする。

【構成】 建築板11の表面には、最上段部に幕板部12が形成され、それ以外の部分にはレンガ柄模様13が形成されている。このレンガ柄模様13は、縦幅又は横幅の異なる複数種類のレンガ柄を不規則に配列した如き外観を呈し、且つ中央部に数段のレンガ柄に跨って縦方向に延びる区割り溝14が板全長にわたって間欠的に形成され、各区割り溝14を挟んで縦幅の最も広いレンガ柄どうしが互いに位置ずれして接するように形成されている。各区割り溝14は、レンガ柄模様13の目地15、16よりも太く、建築板11の継ぎ目（コーキング部材）の横幅に似た太さに形成されている。また、幕板部12の板厚は、両仕舞を良くするためにレンガ柄模様13の部分の板厚よりも薄く形成されている。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 板表面に、縦幅又は横幅の異なる複数種類のレンガ柄を不規則に配列した如き外観を呈するレンガ柄模様を形成すると共に、該板表面の最上段部に、前記レンガ柄模様の部分よりも板厚の薄い帯板部を形成し、この帯板部及び前記レンガ柄模様の所定位置に、該レンガ柄模様の縦目地よりも太く且つ複数段のレンガ柄に跨がって縦方向に延びる区割り溝を板全長にわたって間欠的に形成したことを特徴とする建築板。

【請求項 2】 前記レンガ柄模様は、前記区割り溝を挟んで縦幅の最も広いレンガ柄どうしが少なくとも 1 組互いに位置ずれて接するように形成されていることを特徴とする請求項 1 に記載の建築板。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、建築物の外壁として使用されるレンガ柄模様の建築板に関するものである。

【0002】

【従来の技術】近年、建築物の外壁の外観デザインを向上させるために、例えば東開昭 60-70108 号公報に示すように、建築物の外壁として使用される建築板の表面にレンガ柄模様をプレス成形等により形成したものがある。このようなレンガ柄模様の建築板は、工場で一定サイズに切断されて出荷されるため、建築物の外壁に貼り付ける場合には、複数枚の建築板を継ぎ合わせるように貼り付ける必要がある。この際、建築板の継ぎ目でレンガ柄模様の目地が不揃いであると、建築板の継ぎ目が目立って美観・施工品質を損ねるので、建築板の継ぎ目でレンガ柄模様の目地を揃えること（換言すれば建築板の継ぎ目を目立たなくすること）が施工上の重要なポイントとなっている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、施工時に建築板の継ぎ目でレンガ柄模様の目地を正しく揃える作業は細心の注意を必要として極めて面倒である。しかも、作業者がいくら丁寧に施工したとしても、建築板の切断時のごく僅かな位置決め誤差により、各建築板の目地の位置には若干のばらつきがあるため、施工時に建築板の継ぎ目でレンガ柄模様の目地を正しく揃えることが困難な場合もある。特に、最近の建築板は、施工時間を減らすために、大板化されているため、建築板の切断時の位置決め誤差が大きくなる傾向があり、上述した目地の不揃いの問題が生じ易くなってきている。また、施工現場等で外壁の面積に合わせて一部の建築板を半割り等にカットして使用することもあるが、施工現場で建築板を正しい寸法にカットする作業はかなりの手間がかかる。

【0004】本発明はこのような事情を考慮してなされたもので、その目的は、建築板の継ぎ目でレンガ柄模様の目地が多少ずれていたとしても、それがほとんど目立

たず、美観を損なわずに済むと共に、デザイン的にも斬新で、施工も容易で、しかも雨仕舞いも良くなることが出来る建築板を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、本発明の建築板は、板表面に、縦幅又は横幅の異なる複数種類のレンガ柄を不規則に配列した如き外観を呈するレンガ柄模様を形成すると共に、該板表面の最上段部に、前記レンガ柄模様の部分よりも板厚の薄い帯板部を形成し、この帯板部及び前記レンガ柄模様の所定位置に、該レンガ柄模様の縦目地よりも太く且つ複数段のレンガ柄に跨がって縦方向に延びる区割り溝を板全長にわたって間欠的に形成したものである（請求項 1）。

【0006】この場合、レンガ柄模様を、前記区割り溝を挟んで縦幅の最も広いレンガ柄どうしが少なくとも 1 組互いに位置ずれて接するように形成することが好ましい（請求項 2）。

【0007】

【作用】本発明の請求項 1 の建築板の表面に形成されたレンガ柄模様は、縦幅又は横幅の異なる複数種類のレンガ柄を不規則に配列した如き外観を呈し、且つ複数段のレンガ柄に跨がって縦方向に延びる区割り溝が板全長にわたって間欠的に形成され、小割り窓のある斬新なデザインとなっている。このようなレンガ柄模様では、レンガ柄の不規則性と間欠的な区割り溝によって、建築板の継ぎ目の目地のずれが目立ちにくくなる。

【0008】つまり、建築板の継ぎ目（コーキング部材）の溝幅に限った太さの区割り溝をレンガ柄模様の間欠的に形成することによって、建築板の継ぎ目が区割り溝と共にレンガ柄模様の中にデザイン的に融合して自然な感じになり、人の目に建築板の継ぎ目をことさら継ぎ目として意識させずに済む。しかも、区割り溝の左右両側に縦幅又は横幅の異なる複数種類のレンガ柄を不規則に配列して、区割り溝の左右両側に隣接する少なくとも一部のレンガ柄の縦目地の位置をずらすことによって、レンガ柄の縦目地の位置ずれもレンガ柄模様の斬新感を醸し出す要素となり、人の目には建築板の継ぎ目の目地のずれも模様のうちと認識されるようになる。

【0009】また、建築板を上下に重ねて貼り付ける場合には、区割り溝を位置合せの目印として使用することができ、位置合さを簡単に行うことができる。しかも、施工現場等で、建築板をカットして使用する場合には、区割り溝に沿ってカットすることにより、一定サイズに簡単にカットすることができる。例えば、区割り溝の位置を建築板の中央に設定すれば、建築板の半割りカットが容易である。要するに、カットされることの多いサイズに合わせて区割り溝を形成しておけば、施工現場でのカットが容易である。

【0010】更に、建築板の最上段部に形成した帯板部の板厚がレンガ柄模様の部分よりも薄くなっているの

で、建築板を上下に重ねて貼り付けた場合でも、上の建築板から下の建築板へ雨水が流れる際に下の建築板の上縁縁に雨水が滞留しにくくなり、上の建築板から下の建築板へ雨水が流れ易くなって、雨仕舞が良くなる。

【0011】しかも、区割り溝は板全長に連続して延びていないので、雨水の流れる道筋が一定とならず、水あかによる汚れが分散して目立ちにくくなる。更に、区割り溝は間欠的に形成されているだけであるので、これを板全長に連続して形成した場合に比して、建築板の強度低下が少なく、風圧・地震荷重に対する耐力も十分に確保することができる。

【0012】更に、請求項2では、レンガ柄模様を、区割り溝を挟んで縦幅の最も広いレンガ柄どうしが少なくとも1組互いに位置ずれて接するように形成している。区割り溝を挟んでレンガ柄の横目地の位置ずれをアクセント的に強調した模様となり、建築板の縦目地のずれが益々目立たなくなる。このため、建築板を小割りにカットして使用する場合に、建築板をどの位置でカットしても、建築板の縦目地のずれが目立たず、建築板を必要な大きさに自由にカットすることができ

【0013】

【実施例】以下、本発明の一実施例を図面に基いて説明する。建築板11は、例えば繊維入りセメント材料を押圧成形して形成したものであり、その四辺全面が面取り加工されている。この建築板11の最上縁部には、表面が平坦な帯板部12が一体に形成されている。

【0014】建築板11の表面には、帯板部12を除く全面にレンガ柄模様13が形成されている。このレンガ柄模様13は、縦幅又は横幅の異なる複数種類のレンガ柄を不規則に配列した如き外観を呈し、且つ中央部に数段のレンガ柄に跨って縦方向に延びる区割り溝14が板全長にわたって間欠的に形成され、小割り感のある斬新なデザインとなっている。このレンガ柄模様13の横目地15は、横幅方向に建築板11の両端又は区割り溝14まで平行に延びるように形成されている。各横目地15の間隔は一定ではなく、不規則に変化している。また、各縦目地16の位置も不規則に変化し、且つ上下に隣接するレンガ柄の縦目地16が多くても数段連続するだけで、全般的に短くなっている。各縦目地16は、横目地15に比べて著しく細く形成されている。

【0015】前記区割り溝14は、レンガ柄模様13の縦目地16や横目地15よりも太く、建築板11の縦目地（コーキング部材）の縦幅に似た太さに形成されている。この区割り溝14は帯板部12にも同様の太さに形成されている。また、帯板部12の板厚は、雨仕舞を良くするために、レンガ柄模様13の部分の板厚（平均レベル）よりも薄く形成され、帯板部12の表面がレンガ柄模様13の表面（平均レベル）よりも低くなっている。

【0016】この実施例では、レンガ柄模様13は、区割り溝14を挟んで縦幅の最も広いレンガ柄どうしが互いに位置ずれて接するように形成されている。つまり、縦幅の最も広いレンガ柄が区割り溝14を挟んで接する場合には、当該レンガ柄の横目地15が区割り溝14で上下に位置ずれて真っ直ぐに連続しないようになっている。但し、区割り溝14を挟んで接する最も広いレンガ柄が2組以上ある場合には、少なくとも1組が位置ずれていれば良い。

【0017】以上説明した実施例によれば、建築板11の縦目地（コーキング部材）の縦幅に似た太さの区割り溝14をレンガ柄模様13に間欠的に形成することによって、建築板11の縦目地が区割り溝14と共にレンガ柄模様13の中にデザイン的に融合して自然な感じになり、人の目に建築板11の縦目地をことさら縦目地として意識させずに済む。しかも、各区割り溝14の左右両側に縦幅又は横幅の異なる複数種類のレンガ柄を不規則に配列して、各区割り溝14の左右両側に隣接する少なくとも一部のレンガ柄の横目地15の位置をずらすことによって、レンガ柄の横目地15の位置ずれもレンガ柄模様13の斬新感を醸し出す要素となり、人の目には建築板11の縦目地の横目地15のずれも模様のうちと認識されるようになる。このため、建築板11の縦目地でレンガ柄模様13の横目地15が多少ずれていたとしても、それがほとんど目立たず、美観を損なわずに済む。

【0018】更に、この実施例では、レンガ柄模様13を、区割り溝14を挟んで縦幅の最も広いレンガ柄どうしが少なくとも1組互いに位置ずれて接するように形成している。区割り溝14を挟んでレンガ柄の横目地15の位置ずれをアクセント的に強調した模様となり、建築板11の縦目地の横目地15のずれを益々目立ちにくくすることができる。このため、建築板11を小割りにカットして使用する場合に、建築板11をどの位置でカットしても、建築板11の縦目地の横目地16のずれが目立たず、建築板11を必要な大きさに自由にカットすることができて、施工性を向上することができる。

【0019】しかも、施工現場で、建築板11をカットして使用する場合には、区割り溝14に沿ってカットすることにより、一定サイズに簡単にカットすることができる。例えば、この実施例のように、区割り溝14の位置を建築板11の中央に設定すれば、建築板11の半割りが容易である。要するに、カットされることの多いサイズに合わせて区割り溝14を予め決められた位置に形成しておけば、施工現場でのカットが容易である。従って、区割り溝14の位置は建築板11の中央に限定されず、例えば、建築板11の縦幅の1/3、2/3又は1/4、2/4、3/4の位置に形成するようにしても良く、勿論、これ以外の位置に形成しても良いことは言うまでもない。

【0020】また、建築板11を上下に重ねて貼り付ける場合には、区割り溝14を位置合せの目印として使用することができ、半ずらしの位置合せをも簡単に行うことができる。

【0021】更に、建築板11の最上段部に形成した幕板部12の板厚がレンガ柄模様13の部分よりも薄くなっているため、建築板11を上下に重ねて貼り付けた場合でも、上の建築板11から下の建築板11へ雨水が流れる際に下の建築板11の上端縁に雨水が滞留しにくくなり、上の建築板11から下の建築板11へ雨水が流れ

易くなって、雨仕舞が良くなり、防水性を向上させることができる。

【0022】しかも、区割り溝14は板全長に連続して延びていないので、雨水の流れる道筋が一定とならず、水あかによる汚れが分散して目立ちにくくなる。更に、区割り溝14は間欠的に形成されているだけであるので、これを板全長に連続して形成した場合に比して、建築板11の強度低下が少なく、風圧・地震荷重に対する耐力も十分に確保することができる。

【0023】尚、この実施例では、幕板部12の表面を平坦に形成したが、適宜の凹凸模様を形成しても良い等、本発明は、要旨を逸脱しない範囲内で種々変更して実施できることは言うまでもない。

【0024】

【発明の効果】以上の説明から明らかなように、本発明の請求項1の建築板によれば、レンガ柄の不規則性と間欠的な区割り溝と幕板部とによって、建築板の表面柄模様を従来にはない小割り感のある斬新なデザインとすることができると共に、建築板の継ぎ目の目地のずれを目立ちにくくすることができる。このため、建築板の継ぎ目でレンガ柄模様の目地が多少ずれていたとしても、それがほとんど目立たず、美観を損なわずに済む。しかも、建築板を上下に重ねて貼り付ける場合には、区割り溝を位置合せの目印として使用することができ、位置合せを簡単に行うことができる。その上、施工現場等

で、建築板をカットして採用する場合には、区割り溝に沿ってカットすることにより、一定サイズに簡単にカットすることができる。

【0025】更に、建築板の最上段部に形成した幕板部の板厚がレンガ柄模様の部分よりも薄くなっているため、建築板を上下に重ねて貼り付けた場合でも、上の建築板から下の建築板へ雨水が流れる際に下の建築板の上端縁に雨水が滞留しにくくなり、上の建築板から下の建築板へ雨水が流れ易くなって、雨仕舞が良くなる。

【0026】しかも、区割り溝は板全長に連続して延びていないので、雨水の流れる道筋が一定とならず、水あかによる汚れが分散して目立ちにくくなる。更に、区割り溝は間欠的に形成されているだけであるので、建築板の強度低下が少なく、風圧・地震荷重に対する耐力も十分に確保することができる。

【0027】また、請求項2では、レンガ柄模様を、区割り溝を挟んで幅の最も広いレンガ柄どうしが少なくとも1組互いに位置ずれして接するように形成しているので、区割り溝を挟んでレンガ柄の横目地の位置ずれをアクセント的に強調した模様となり、建築板の継ぎ目の目地のずれを益々目立ちにくくすることができる。このため、建築板を小割りにカットして使用する場合に、建築板をどの位置でカットしても、建築板の継ぎ目の目地のずれが目立たず、建築板を必要な大きさに自由にカットすることができ、施工性を一層向上させることができる。

【図面の簡単な説明】

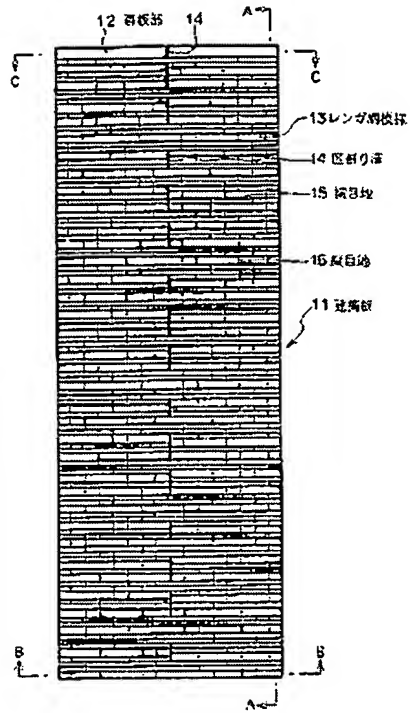
【図1】本発明の一実施例を示す建築板の平面図である。

【図2】(a)は図1のA-A断面図、(b)は図1のB-B断面図、(c)は図1のC-C断面図である。

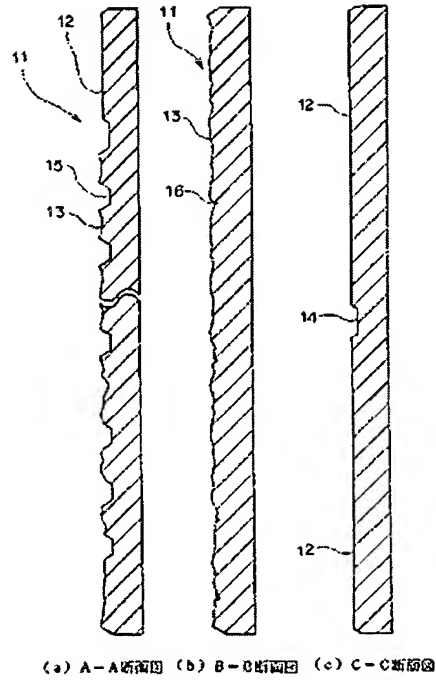
【符号の説明】

11…建築板、12…幕板部、13…レンガ柄模様、14…区割り溝、15…横目地、16…縦目地。

【図1】



【図2】



(a) A-A断面図 (b) B-B断面図 (c) C-C断面図

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-109728

(43)Date of publication of application : 30.04.1996

(51)Int.Cl.

E04F 13/08

E04C 2/30

(21)Application number : 06-246655

(71)Applicant : NICHIIHA CORP

(22)Date of filing : 13.10.1994

(72)Inventor : TAKEMURA TETSUJI
OGAWA YASUHIRO

(54) BUILDING BOARD

(57)Abstract:

PURPOSE: Not to spoil an outer appearance by making slippage almost inconspicuous even if joints of brick patterns are slightly slipped on joints of building boards.

CONSTITUTION: An end rail part 12 is formed on the top stage part and a brick pattern 13 is formed on other parts on a surface of a building board 11. This brick pattern 13 has an outer appearance as if a plural number of kinds of brick patterns were irregularly arranged differently in longitudinal breadth or in lateral breadth, dividing grooves 14 extending in the longitudinal direction by way of straddling several stages of the brick patterns are intermittently formed along the whole length of the board on a central part, and the brick patterns widest in longitudinal breadth are formed sandwiching each of the dividing grooves in such a way as to make contact with each other by way of slipping each other. Each of the dividing grooves 14 is formed wider than joints 15, 16 of the brick pattern 13 and almost as wide as the lateral breadth of a joint (caulking member) of the building board 11. Additionally, the end rail part 12 is formed thicker than a part of the brick pattern 13 so as to improve flashing.

